

港湾春闘

日曜反復スト通告

31日以降 次回交渉は29日

2019年港湾春闘は、20日に東京都内で開かれた中央団体交渉が決裂した。全国港湾労働組合連合会(全国港湾)・全日本港湾運輸労働組合同盟(港運同盟)の港運中央労組は日本港運協会に対し31日の降、すべての日曜日の24時間反復ストライキを通告。次回交渉はスト予定日の前の29日で、経営側はスト回避に向け交渉に臨む。一方、全国港湾は今後の交渉次第では、日曜反復ストへの上乘せ通告(土・日曜または日・月曜の48時間連続ストなど)の用意があることを示唆した。通告されたスト内容は、31日を皮切りに交渉妥結までの毎日曜日、始業時(午前8時30分)から翌日始業時まで就労拒否・荷役阻止を行う。対象は全港・全職種。春闘とは別に先月、組合側が事前協議手続きを行わなかった船社が沖縄県で荷役を行った事案に抗議し通告したスト(その後の労使折衝で延期中)についても、今回の通告に事実上抱合される形となる。20日の中央団交渉終了後

に見えた全国港湾の玉田雅也書記長は、「業側(経営側)の回答は部分的なものにとまり、特に産別最低賃金の統一回答については前回交渉と同様に回答を留保するなど、誠意が感じられない内容だった」と、スト通告に至った背景を説明した。同時に、「今後の交渉次第では、日曜反復ストへの上乘せ行動を行う用意がある」とも言及。日曜日に連続する形で48時間ストを実施することも視野に、交渉に臨む姿勢を示した。

近年の港湾春闘でスト実施に至ったのは、17年の日曜24時間スト(2回実施)が最後。29日の団交で2年ぶりのスト突入を回避できるかが焦点となる。